

デング熱国内感染患者 現時点での疫学情報のまとめ

平成 26 年 9 月 3 日
 国立感染症研究所
 ウイルス第一部
 感染症疫学センター

症例 番号	年齢 性別	居住地	医療機関 所在地	発症日	代々木公園	蚊の刺咬	備考
1	10代 女性	埼玉県	さいたま 市	8月20日	行った (8/11, 8/14, 8/18)	あり	8/27 公表
2	20代 男性	東京都	東京都 新宿区	8月24日	行った (日は未確定)	あり	8/28 公表
3	20代 女性	埼玉県	埼玉県	8月18日	行った (8/1, 4, 6, 8, 11, 14, 18)	あり	8/28 公表
4	10代 男性	埼玉県	さいたま 市	8月16日	行った (8/9~8/10)	不明	9/1 公表
5	50代 男性	千葉県	千葉県 柏市	8月27日	周辺に行った (8/15, 16, 17, 18, 21, 23, 24, 25)	あり (8/23)	9/1 公表
6	50代 男性	東京都	東京都 渋谷区	8月25日	行った (毎日)	あり	9/1 公表
7	10代 男性	東京都	東京都 文京区	8月24日	行った 8/20頃	不明	9/1 公表
8	40代 女性	東京都	東京都 新宿区	不明	行った (8/18)	不明	9/1 公表
9	30代 女性	東京都	東京都 渋谷区	8月24日	行った (毎日)	不明	9/1 公表
10	20代 男性	東京都	東京都 渋谷区	8月17日	行った (8/10頃)	不明	9/1 公表
11	10歳 未満 男児	東京都	東京都 渋谷区	8月21日	行った (8/16)	あり	9/1 公表
12	10代 男性	東京都	東京都 新宿区	8月18日	行った (8/11)	不明	9/1 公表

13	30代 女性	東京都	東京都 新宿区	8月23日	行った (8/10)	不明	9/1 公表
14	40代 女性	東京都	東京都 新宿区	8月28日	行った (8/20)	不明	9/1 公表
15	30代 男性	東京都	東京都 渋谷区	8月22日	行った (8/17)	不明	9/1 公表
16	20代 男性	東京都	東京都 港区	8月16日	行った (8/9~8/10)	不明	9/1 公表
17	20代 男性	東京都	東京都 江戸川区	8月25日	行った (8/20)	あり	9/1 公表
18	30代 男性	東京都	東京都 練馬区	8月24日	行った (8/17)	あり	9/1 公表
19	10代 女性	茨城県	茨城県 つくば市	8月23日	周辺へ行った (8/16~18)	あり	9/1 公表
20	10代 女性	神奈川県	神奈川県 横浜市	8月23日	代々木公園周辺を通った。 (8/16-18)	覚えて いない	8/31 疑い例 として自治 体が公表
21	20代 男性	神奈川県	神奈川県 横浜市	8月25日	行った (8/18)	あり	8/31 疑い例 として自治 体が公表
22	10代 男性	新潟県	新潟県 新発田市	8月24日	代々木公園周辺を通った。 (8/20)	あり	8/31 疑い例 として自治 体が公表
23	20代 女性	東京都	東京都	8月26日	行った (8/21)	あり	9/2 公表
24	10歳 未満 男児	東京都	東京都	8月24日	行った (8/16、17)	あり	9/2 公表
25	20代 女性	東京都	東京都	8月14日	行った (8/10)	あり	9/2 公表
26	20代 男性	東京都	東京都	8月25日	周辺へ行った (不明)	あり	9/2 公表
27	50代 男性	東京都	東京都	8月30日	行った (不明)	あり	9/2 公表
28	20代 女性	東京都	東京都	8月29日	行った (週に5日程度)	あり	9/2 公表

29	20代 男性	東京都	東京都	8月25日	行った (8/18)	不明	9/2 公表
30	20代 男性	青森県	青森市	8月25日	行った (8/19)	あり	9/2 公表
31	10代 女性	山梨県	山梨県	8月23日	代々木公園周辺 (8/16~18)	あり	9/2 公表
32	10代 女性	大阪府	大阪府 高槻市	8月30日	行った (8/25, 26)	あり	9/2 公表
33	10代 女性	大阪府	大阪府 高槻市	8月31日	行った (8/25, 26)	覚えて いない	9/2 公表
34	10代 女性	大阪府	大阪府 高槻市	9月1日	行った (8/25, 26)	覚えて いない	9/2 公表
35	10代 男性	愛媛県	愛媛県 宇和島	8月14日	行った (8/5~13)	不明	9/2 自治体が 公表
36	20代 男性	東京都	岡山県 倉敷市	8月24日	行った (8/14~17のいずれか)	不明	9/2 疑い例と して自治体 が公表
37	10代 女性	新潟県	新潟市	8月24日	周辺へ行った (8/16~18)	あり	9/2 自治体が 公表
38	40代 女性	東京都	東京都	8月26日	行った (8/19)	不明	9/3 公表
39	20代 女性	東京都	東京都	8月26日	行った (8/21)	あり	9/3 公表
40	70代 男性	東京都	東京都	8月28日	行った (毎日)	あり	9/3 公表
41	40代 女性	東京都	東京都	8月30日	行った (毎日)	不明	9/3 公表
42	20代 女性	東京都	東京都	9月1日	行った (不明)	不明	9/3 公表
43	10代 女性	東京都	東京都	9月1日	行った (8/27)	あり	9/3 公表
44	40代 男性	東京都	東京都	8月26日	行った (毎日)	あり	9/3 公表
45	40代 女性	東京都	東京都	8月29日	周辺へ行った (8/21~24)	あり	9/3 公表
46	40代 男性	山梨県	山梨県	9月1日	行った (8/26)	あり	9/3 公表

47	40代 女性	北海道	北海道 札幌市	8月29日	周辺へ行った (8/22)	あり	9/3公表
----	-----------	-----	------------	-------	------------------	----	-------

平成 26 年 9 月 2 日

デング熱の国内感染症例について

1 平成 26 年 9 月 2 日 13:10、宇和島保健所管内で発生した疑い患者の検体について国立感染症研究所で検査を行ったところ、デング熱の感染が確認されましたのでお知らせします。

患者は海外渡航歴がなく、都立代々木公園周辺に宿泊し、公園内で野外活動をしていました。

- (1) 年齢等 10 歳代 男性
- (2) 蚊の刺咬歴 不明
- (3) 症状 発熱、頭痛、嘔吐、倦怠感、血小板減少、白血球減少
- (4) 経緯 8 月 5 日～13 日、都立代々木公園周辺に宿泊
8 月 6 日に都立代々木公園内で屋外活動
8 月 14 日 発症（発熱、食欲不振）
8 月 15 日 医療機関受診
8 月 18 日 入院
8 月 29 日 症状回復し、退院
9 月 2 日 国立感染症研究所の検査でデング熱の感染を確認

2 また、患者の同行者のうち、1 名について発疹等の症状があったため、県立衛生環境研究所及び国立感染症研究所で確認検査を行うこととしています。

なお、その他の同行者 28 名については、健康状況に異常はありません。

- (1) 年齢等 10 歳代 男性
- (2) 蚊の刺咬歴 不明
- (3) 症状 発熱、発疹、頭痛、倦怠感
- (4) 経緯 8 月 12 日 発疹
8 月 21 日、23 日、9 月 1 日 医療機関受診

3 今後の対応について

(1) デング熱相談ダイヤルの設置

四国中央保健所（0896-23-3360）	西条保健所（0897-56-1300）
今治保健所（0898-23-2500）	中予保健所（089-909-8757）
八幡浜保健所（0894-22-4111）	宇和島保健所（0895-22-5211）

(2) 現時点では、

- ・上記 2 名は、発症後 5 日間は医療機関受診以外の外出をしていないこと（刺咬した蚊が感染力を持つとされるのは、発症前日から発症後 5 日間）
- ・上記 2 名以外に新たな患者の発生が確認されていないことから、感染拡大の可能性は低いと判断しています。

(3) 医師会を通じて医療機関に対し、情報提供の徹底を依頼。

報道機関各位におかれましては、患者のプライバシーの確保に十分配慮いただくとともに、以下の啓発についてよろしくお願いいたします。

【県民への呼びかけ】

- 1 蚊に刺されないように注意しましょう。
 - ・長袖、長ズボンを着用し、肌の露出を避ける。
 - ・虫よけ剤を使用し、蚊を寄せ付けないようにする。
- 2 蚊を増やさないようにしましょう。
 - ・下水溝、バケツ等が蚊の幼虫の発生源とならないよう注意する。
- 3 蚊に刺されて 3～7 日程度で高熱が見られた場合は、医療機関を受診しましょう。

(参考)

デング熱とは

1 概要

アジア、中南米、アフリカなど熱帯・亜熱帯地域に広くみられ、世界中で毎年約5,000万～1億人の患者が発生していると考えられています。

日本では、海外で感染して帰国後発症する、いわゆる輸入感染症例が年間約200例報告されています。(2012年221例、2013年249例)

過去60年以上国内における感染報告はありませんでしたが、2014年8月以降、都立代々木公園で感染したとみられる症例が国内で発生しています。

2 感染経路

ウイルスを保有した蚊(ヤブ蚊類)に刺されて感染します。人-蚊-人の経路で感染し、人から人への感染はありません。なお、国内に生息するヒトスジシマカの活動範囲は50～100メートル程度で、活動時期は5月中旬～10月下旬頃までです。

3 症状

潜伏期間は2～15日(多くは3～7日)で、突然の発熱、激しい頭痛、関節痛、筋肉痛、皮疹のほか、血液検査で血小板減少、白血球減少がみられます。症状は1週間程度で回復すると言われています。なお、ごくまれに一部の患者において重症化してショック症状や出血傾向を示すことがあります。

4 治療方法

特異的な治療方法はなく、対症療法が主体となります。現在のところ、有効な抗ウイルス薬はありません。

5 予防方法

特に日中、蚊との接触をさけてください。

具体的には、

- ①長袖、長ズボンを着用し、素足でのサンダル履き等は避ける。
- ②虫除け剤等を使用し、屋外だけでなく屋内でも蚊に刺されないように注意する。
- ③室内の蚊の駆除を心がける。
- ④蚊の幼虫の発生源を作らないように注意する。

【参考ホームページ】

1 厚生労働省 デング熱について

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/dengue_fever.html

2 国立感染症研究所 デング熱とは

<http://www.niid.go.jp/niid/ja/encyclopedia/392-encyclopedia/238-dengue-info.html>

資料提供

平成26年9月2日
倉敷市保健所保健課

デング熱の国内感染例（疑い例）の発生について

1 概要

平成26年9月1日に、市内の医療機関からデング熱を疑う患者の連絡があり、院内で迅速検査を実施したところ陽性となったため、発生届がありました。本日（9月2日）、国立感染症研究所へ検体を送り、確認検査を依頼しています。当該患者は1ヶ月以内の海外渡航歴はなく、都立代々木公園に立ち寄っている事が確認されています。患者は現在入院中ですが、快方に向かっています。

2 患者について

- (1) 年齢等 : 東京都在住 20歳代男性
- (2) 海外渡航歴 : なし
- (3) 患者行動 : 8月14～17日の間のいずれかの日で、都立代々木公園に立ち寄っている。
- (4) 発症・受診 : 8月24日に発熱・関節痛・下痢。
8月26日に倉敷市に帰省。
8月26日に倉敷市内の医療機関受診し、29日入院。
- (5) 症状 : 現在、快方に向かっている。
- (6) 検査・診断 : 9月1日に医療機関のスクリーニング検査で陽性判明。
国立感染症研究所で確認検査を依頼中。

3 倉敷市の対応について

医療機関・市民への注意喚起を行います。

現在、患者家族等の健康観察を実施中です。現在のところ、この患者を介しての市内での感染拡大の可能性は低いと考えられます。

デング熱について

【デング熱とは】

デングウイルスによる感染症で、蚊が媒介して感染し、ヒトからヒトへ直接感染することはありません。主に、東南アジア、南アジア、中南米などの熱帯や亜熱帯の地域で流行しており、日本国内では、海外の流行地で感染し帰国した症例が毎年 200 人前後報告されています。

媒介する蚊の種類は、日本には常在していないネツタイシマカ他、青森県以南のほとんどの地域で見られるヒトスジシマカも媒介すると言われています。

【主な症状】

潜伏期間は、2 日から 15 日で、突然の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、発疹などがみられます。

多くの場合、発症しても一週間程度で改善する予後良好な感染症ですが、まれに重症化して出血やショックを引き起こすデング出血熱やデング症候群に移行することがあります。蚊に刺されて、発熱等の症状がある場合は、かかりつけの医療機関などにご相談ください。

【治療】

特異的な治療法はなく、対症療法が主体です。

現在のところ有効な抗ウイルス薬はありません。

【予防法】

ヒトスジシマカの活動は5月中旬から10月下旬で、青森県以南に広く分布しています。

（成虫対策）

成虫は、民家の庭、公園、墓地などに住み朝方から夕方にかけて吸血します。屋内への蚊の侵入を防ぐことや屋外では皮膚の露出を避け、忌避剤の使用が効果的です。

（幼虫対策）

住宅周辺の幼虫発生源(水溜り)をなくすことも重要です。雨水マス、植木鉢やプランターの水の受け皿等に水がたまらないようにします。

連絡および問い合わせ先

倉敷市保健所保健課感染症係

電話 086-434-9810

4 類感染症発生情報

平成 26 年 9 月 2 日

感 染 症 名	デング熱	
届出医療機関	新潟市保健所管内	
患 者	年代	10 代
	性別	女
診 断 方 法	血液検査による (デングウイルス遺伝子検出)	
発病年月日	平成 26 年 8 月 24 日	
診断年月日	平成 26 年 9 月 2 日	
届出年月日	平成 26 年 9 月 2 日	
経 過 等	平成 26 年 8 月 16 日から 8 月 18 日まで 8 月 24 日 8 月 25 日から 8 月 28 日まで 8 月 29 日 8 月 30 日 9 月 1 日 9 月 2 日	<ul style="list-style-type: none"> 東京、代々木公園付近の施設に宿泊。日中、屋外移動中に蚊に刺された。 38 度から 39 度台の発熱をきたす。 市内医療機関受診し、通院治療うけるも改善せず。血液検査で白血球および血小板の減少を認めた。 同医療機関受診後、市内病院紹介され入院。 熱は下がったが、発疹が出現し、手足に浮腫（むくみ）がみられるようになった。 病院主治医から保健所にデング熱の検査について相談があり、患者血液を市衛生環境研究所に搬入。 血液検査の結果、PCR 検査でデングウイルスが検出され、デング熱と診断。病院から 4 類感染症発生届提出。 <p>*患者は全身状態が改善したため、9 月 1 日に退院済</p>
備 考	<ul style="list-style-type: none"> 県内のデング熱の発生 ◆ 新潟市：平成 18 年 1 人（海外感染）、平成 22 年 1 人（海外感染） ◆ 新潟県：平成 20 年 1 人（海外感染）、平成 26 年 1 人（国内感染） 	

<お願い>

報道機関各位におかれましては、感染症法の精神に基づき、感染者及び患者家族等について本人が特定されないことがないよう、人権に格段のご配慮をお願いいたします。

新潟市保健衛生部保健所保健管理課 感染症対策室 025-212-8194 (担当：山崎)

※この件についての、問い合わせは午後 8 時までをお願いします。

デング熱の国内感染症例について(第4報)

都内医療機関から、新たに海外渡航歴がないデング熱患者8名の届出がありました。患者はいずれも都立代々木公園及びその周辺に訪問等をしていたことが確認されています。

なお、現時点で重篤な症状を呈する患者は確認されておりません。

9月2日に届出のあった患者の概要及び専用相談電話の実績について、以下のとおりお知らせします。

1 患者について

	届出受理日	年代性別	発症日	推定感染日
1	9/2	40代女性	8/26	8/19
2	9/2	20代女性	8/26	8/21
3	9/2	70代男性	8/28	不明
4	9/2	40代女性	8/30	不明
5	9/2	20代女性	9/1	不明
6	9/2	10代女性	9/1	8/27
7	9/2	40代男性	8/26	不明
8	9/2	40代女性	8/29	8/21～8/24

報道発表済みの患者数21名

2 専用相談電話実績(電話番号 03-5320-4179)

8/28(木)～9/1(月)	9/2(火)	合計
283	183	466

平日午前9時から午後7時まで

Press Release

平成26年9月3日
福祉保健部健康増進課感染症担当
電話 055-223-1494
FAX 055-223-1499

報道関係者各位

デング熱国内感染症例の発生について（第2報）

山梨県内の医療機関から、新たに直近の海外渡航歴がないデング熱患者1名の届出がありました。当該患者は都立代々木公園を訪問していたことが確認されています。

1 患者について

- (1) 年齢等 山梨県在住、40代、男性
- (2) 海外渡航歴 直近の海外渡航歴無し
- (3) 発症、受診 9月1日発症、県内の医療機関を受診後、入院
- (4) 症状 発熱、倦怠感（現在も入院加療中）
- (5) 県衛生環境研究所で確認検査を実施し、デング熱患者であることが確認された。
- (6) 蚊の刺咬歴 8月26日、都立代々木公園

2 関連情報

(1) これまでの患者発生状況

9月2日までに東京都、埼玉県他併せて9都府県において患者計34名（本県の患者1名含む）が、都立代々木公園周辺を推定感染地域とする国内感染症例として確認されています。（9月2日厚生労働省発表資料による）

(2) 推定感染地域

調査の結果、患者が発症前に都立代々木公園で蚊に刺されたこと、これまで確認された患者も都立代々木公園及びその周辺で蚊に刺されたことが確認されていることから、代々木公園でウイルスを保有している蚊に刺されて感染した可能性が疑われます。

デング熱は、ヒトからヒトへの直接の感染ではなく、患者から血を吸った蚊が媒介して、他の人に感染する疾患です。感染すると、発熱、頭痛、筋肉痛や皮膚の発疹等が症状として現れますが、一般に一週間前後で回復すると言われており、予後も比較的良好な感染症ですので過度な心配は必要ありません。

蚊に刺されて発熱等の症状がある場合は、医療機関を受診してください。

3 デング熱患者の県内発生状況

年次	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年
患者数	0	0	1	0	0	1	0	0	※2
渡航歴等			渡航歴あり			渡航歴あり			※渡航歴なし

4 デング熱とは

(1) 概要

- ・ 蚊が媒介するウイルスによる疾患で、アジア、中南米、アフリカ等の世界の広範な地域で流行しています。
- ・ ヒトが感染して発症すると、発熱、頭痛、筋肉痛や皮膚の発疹等が症状として現れますが、感染しても発症しないこともあります。
- ・ 症状は、1週間程度で回復し、予後は比較的良好な感染症です。
- ・ ヒト（患者）— 蚊 — ヒト という経路で蚊を媒介して感染しますので、ヒトからヒトに直接感染することはありません。

(2) 症状

- ・ 突然の発熱、激しい頭痛、関節痛、筋肉痛、発疹等が現れます。
- ・ 潜伏期間（感染してから発症するまでの期間）は2～15日（多くは3～7日）
- ・ まれに重症化して、出血やショック症状を発症するデング出血熱や、デング症候群に移行することがあります。

(3) 治療法

- ・ 特異的な治療法はなく、対症療法が主体となります。
- ・ 現在のところ、有効な抗ウイルス薬はありません。

(4) 予防法

- ・ 国内では、ヒトスジシマカ（主に日中で屋外で吸血する）がデング熱を媒介する可能性があります。
- ・ 蚊との接触を避け、刺されないようにすることが重要です。
- ・ 具体的には、次のことが挙げられます。
 - ① 長袖、長ズボンを着用し、屋外作業での、肌の露出をなるべく避ける。
 - ② 虫よけ剤等を使用し、屋内外で蚊に刺されないようにする。
 - ③ 室内の蚊の駆除を心掛ける。
 - ④ 蚊の幼虫の発生源を作らないように注意する。

（蚊は、水辺に産卵します。下水溝、廃タイヤの中や水桶等の人工的な環境下においても産卵し、増殖します。）

○関連リンク

山梨県福祉保健部健康増進課

<http://www.pref.yamanashi.jp/kenko-zsn/37471134462.html#denguefever>

厚生労働省「デング熱について」

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/dengue_fever.html

平成 26 年(2014 年) 9 月 3 日
保健福祉局保健所感染症総合対策課
(担当) 吉津、葛岡 電話：011-622-5199

報道機関各社 様

デング熱の国内感染症例の発生について（情報提供）

このたび、札幌市内の医療機関より、海外渡航歴がなく、国内において蚊の刺咬歴があり、症状からデング熱を疑う患者が発生した旨の連絡がありました。当該患者から採取した検体について北海道立衛生研究所で遺伝子検査を実施したところ、デングウイルス陽性（デング I 型）であることが判明しましたので、以下のとおりお知らせします。

蚊に刺されてから 3～7 日程度で高熱が出た場合には、早めに医療機関を受診してください。

なお、デング熱はヒトからヒトに直接感染せず、デング熱を媒介する蚊の生息が北海道内で確認されていませんので、札幌市内で感染が拡大する可能性は極めて低いと考えられます。

1 デング熱患者の概要

(1) 年齢等

札幌市内在住、40 歳代、女性

(2) 海外渡航歴

最近 1 か月以内に海外渡航歴なし

(3) 蚊の刺咬歴

平成 26 年 8 月 22 日、都立代々木公園周辺において蚊に刺された。

(4) 患者の症状等

8 月 29 日発症、同日に医療機関を受診し、入院加療中で快方に向かっている。
主な症状は、発熱、頭痛、関節痛など。

(5) 検査及び診断

9 月 1 日に札幌市内の医療機関のスクリーニング検査で陽性となり、9 月 3 日に北海道立衛生研究所で遺伝子検査陽性（デング I 型）となりました。

(6) 関係者調査

今後、本件患者と行動を共にした関係者について継続して調査予定

2 関連情報

(1) 平成 26 年 9 月 2 日までに公表された国内感染例（厚生労働省発表）

34 例（東京都、埼玉県、大阪府など 9 都府県で患者が発生）

(2) 推定感染地域

関係者調査の結果、都立代々木公園周辺でデングウイルスを保有している蚊に刺されて感染した可能性が疑われています。

3 デング熱に関する市民向け情報提供及び相談対応について

下記のホームページにデング熱に関する情報を掲載し、市民向け情報提供を行っています。なお、デング熱に関する相談は、札幌市保健所で対応しています。

【デング熱のページ（札幌市保健所ホームページ）】

<http://www.city.sapporo.jp/hokenjo/flkansen/f37denguefever.html>

[参考]

1 デング熱について

(1) 概要

蚊が媒介するウイルスによる疾患で、熱帯や亜熱帯の全域で流行しており、東南アジア、南アジア、中南米などで患者が多くみられます。

(2) 症状

潜伏期間は2～15日で、多くは3～7日です。

突然の高熱で発症し、頭痛、顔面紅潮、結膜充血を伴い、発熱は2～7日間持続します。初期症状に続き、全身の筋肉痛、関節痛、全身倦怠感を呈します。発症後3～4日後、胸部、体幹から始まる発疹が出現し、四肢、顔面に広がります。症状は1週間程度で回復します。

なお、ごくまれに一部の患者において、発熱2～7日後、出血傾向やショック症状を呈するデング出血熱になります。

(3) 感染経路

ウイルスに感染した患者を蚊が吸血すると、蚊の体内でウイルスが増殖し、その蚊が他者を吸血することでウイルスが感染します。

蚊媒介性の疾患で、ヒトからヒトに直接感染する疾患ではありません。また、感染しても発症しないことも多くみられます。

(4) 治療方法

特異的な治療方法はなく、対症療法が主体となります。

(5) 予防方法

国内では、ヒトスジシマカがデング熱を媒介する可能性があると言われていますが、現在のところ青森県以南までしか生息が確認されていません。

本州以南に行く場合には、蚊との接触を避け、刺されないようにすることが重要です。長袖、長ズボンを着用して肌の露出をなるべく避けるとともに、虫よけ剤等を使用して蚊を寄せ付けないようにしてください。

2 デング熱の発生状況について（海外で感染し、帰国後発症したと考えられる症例）

年	全国	北海道	札幌市
平成 21 年	92	0	0
平成 22 年	243	1	0
平成 23 年	104	10	7
平成 24 年	220	5	2
平成 25 年	249	4	3
平成 26 年*	103	2	2

*平成 26 年は第 34 週（～8/24）までの数値

※ プライバシーの保護のため、提供資料の範囲内での報道をお願いいたします。